

学長のコラム

対面授業の重要性 ～師の警咳（けいがい）に接する～

熊本県の新型コロナ新規感染者数は1桁台に落ち着いてきましたが、全国的には下げ止まりの状況で、まだまだ油断ができません。東京オリンピック・パラリンピックの開催も不安材料の一つです。一方で効果をあげているのがワクチン接種です。本学でも7月9日から職域接種が始まります。教職員の皆様には、スムーズなワクチン接種へのご協力を宜しくお願い致します。

さて、去る6月3日に“教育再生実行会議”から「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について」と題する提言が出されました。その内容を要約すると、遠隔教育は今後の高等教育の新たな可能性を拓くものであり、新型コロナウイルス感染症が収束したとしても後戻りをするにはあり得ず、対面授業と遠隔教育との双方の良さを最大限に生かした教育の可能性を追求することが重要であるとされています。一方で、大学は、単に知識・技能を修得するためだけの場ではなく、全人的な教育の場として、教職員・学生間、留学生や社会人との多様な協働や交流を通じた社会性や対人関係能力の涵養がなされるべきで、このような学びや経験のすべてが遠隔・オンライン教育に代替されるものではない。さらに、人が人から直接学ぶことができる希少性から、教師の役割はこれまで以上に重要性が増すと述べられています。

昨年12月の本欄に『「反転授業」のすすめ』という記事を載せましたが、『反転授業』では遠隔授業と対面授業をうまく組み合わせることで新しい教育効果を生み出すことが出来ます。さらに対面授業そのものにも工夫が必要と思います。「警咳（けいがい）に接する」という言葉があります。警咳とは“せきばらい”のことで、「警咳に接する」とは尊敬する人に直接話を聞くことを意味します。大学の講義において「師の警咳に接する」ことができるのは学生の特権とも言えます。私自身の経験を振り返っても、内科の教授による思い出に残る難病患者さんの話、教科書は時代遅れと言いつち、自身の最先端のがん研究の話や滔々と語る病理学の教授など、数々の名講義が思い出されます。対面授業の醍醐味は、教師の背中（生き様）を感じることが出来ることです。私自身がそうだった様に、学生の将来をも決定づける役割を担うことだってあります。遠隔授業と対面授業にはそれぞれ得手不得手があります。ポストコロナ時代を迎えるにあたって、遠隔授業をうまく活用するとともに、学生の魂を揺さぶるような「師の警咳に接する」に値する対面授業を期待します。



江津湖畔の紫陽花

7月・8月の主な行事予定

7/5(月)	(ST3年) 前期定期試験～7/9
7/9(金)	【第1回】新型コロナウイルスワクチン接種～7/21
7/18(日)	7月期オープンキャンパス
7/21(水)	(助産) 前期授業終了
7/26(月)	(助産) 前期定期試験～7/29(予備日含)
7/28(水)	(学部) 前期授業終了
7/29(木)	(学部) 前期定期試験～8/6(予備日含)
7/31(土)	(助産) 夏期休業日～8/17
8/6(金)	【第2回】新型コロナウイルスワクチン接種～8/18
8/7(土)	(学部) 夏期休業日～9/26
8/20(金)	第1回情報セキュリティ研修会
8/22(日)	8月期オープンキャンパス
8/29(日)	チャレンジ熊本大！推薦選抜対策講座

- ・新型コロナウイルス関連
熊本県が14日(月)から2週間続けてきた「医療を守る行動強化期間」は、6/27(日)をもって解除されました。
- ・8/10～13、16は計画年休日です。

令和3年度 新任教員によるお披露目講演会 及び昇任教員による講演会



5月31日(月)1300L講義室において新任教員3名(講師以上)と昇任教員1名による講演会が開催されました(発表者とテーマは以下をご参照ください)。先生方の研究内容等を発表していただき、とても有意義な講演会となりました。

No	発表者	所属	テーマ
1	伊藤 隆明 教授	医学	小細胞肺癌を追って
2	吉田 理恵 講師	看護	医療者間コミュニケーションおよび口腔ケアに関する教育研究の紹介
3	杉本 智波 専任教員・講師	認定	感覚に届ける看護 ～私たちのケアは患者にどのように届いているだろうか～
4	佐々木 千穂 教授	地域	フロンランナーに学ぶ

(文責：企画・人事課)

新型コロナワクチンの職域接種について

新型コロナワクチン接種の加速化を図るため、自治体によるワクチン接種とは別に大学等による職域接種の動きが出てきました。本学では、保健医療職を目指す学生の育成に取り組んでいることに鑑み、国の方針にしたがい、本学での職域接種に向けて積極的に準備を進めています。

具体的には、竹屋学長をプロジェクトリーダーとするワクチン接種プロジェクトチームを編成し、医療、会場運営、学生対応、教職員調整等のチームごとに7月9日接種開始を目標に、各種シミュレーションや薬剤等の準備、行政等との調整を行っています。ワクチンの接種が進めば、これまでの制約ある生活を解除できる可能性が拡がり、より充実した大学運営を行なえるようになります。学内の皆様には接種を推奨していますが、接種は強制ではなくあくまで本人の意思に基づく任意のものとなります。どうぞご理解いただきますようよろしくお願いいたします。(文責：事務局長 河瀬晴夫)

アカデミックスキル支援センターの「教え合い」が熊日に紹介されました。

4月に開設されたアカデミックスキル支援センターが6月26日付熊本日日新聞朝刊（「若者のページ」）で紹介されました。

記事は、学生相互の教え合いや対話を基盤としたセンターの基本的な考え方や概要に続き、センター活動の中核となる学生指導員を紹介。指導員の生の声も掲載しています。

取材は11日午後に行われました。記者歴22年という西山美香記者が来訪。担当教員からおおまかな話を聞いた後、4人の学生指導員を直接取材しました。このうち、看護学科4年の松田菜々子さんは「(指導員の活動を通じ)書くことへの苦手意識が薄れ、人前で話せるようになったことが大きい」と話していました。



取材を終えた西山記者は、「受け答えが的確だった」と指導員への印象を語った上で、「学生のコミュニケーション力を鍛えるのにも有効な取り組み、医療系大学だからこそ必要な部門でないか」と評価していました。

(文責：企画・人事課)



熊保大*英語力UP*大作戦展開中！

【英語力UP勉強会 NOW OR NEVER!】

保健科学国際シンポジウム本学開催(10月)を機に、本学教職員の英語によるコミュニケーション能力向上のため、昨年11月以降ひと月に1回のペースで続いています。非常勤講師のArmstrong先生ほか複数のファシリテーターと一緒に楽しく英会話を学んでいるので、初めての方もどうぞ安心してご参加ください。また、10月のシンポジウム直前には、演者による学内発表会を予定しています。プレゼンや質疑応答を英語で行うのはとても緊張しますが、英語力UP間違いなしです！Why don't you join us?

【2021年度第1回TOEIC L&R IPテスト】

7月10~11日に実施予定です。遠隔・対面試験から選べ、すでに学生が10名ほど申し込んでいます。遠隔試験はPC等を使ったオンライン方式で自宅でも受験可能です。対面試験はマークシート方式で学内の講義室で行います(感染予防対策遵守)。試験というと、どうしてもスコアが気になりますが、実践的な英語力を測るTOEICは”スコアUP=スキルUP=英語力UP”を目指しています。教職員の皆さまもお申込みいただけますので、この機会にぜひ挑戦してみたいかでしょうか？

(文責：共通教育センター 森友子)

ピア・サポーターによる相談会 (学生生活等の相談会)の開催

5/19~5/21の昼休み、キャンパステラスにて「ピア・サポーターによる相談会」を開催しました。この相談会は、入学してひと月ほどが経過した5月に毎年開催しており、勉強の仕方や、学生生活全般についての相談を受け付けるものです。ピア・サポーターにとっては新しい気づきの場であるとともに、登録したばかりのプチ・サポーターにとっては、自らが「相談者」として参加することで、先輩ピア・サポーターの言動を見て学ぶ良い機会となっています。後日提出された「ピア・サポート活動報告書」によると、定期試験に関する相談が多かったようです。

やや緊張した面持ちで来場した1年生が、明るい表情で帰って行く姿がとても印象的でした。次は、7月に「定期試験対策相談会」を開催します。お待ちしておりますね。(相談会では感染防止対策をおこなっています。)

(文責：学生相談・修学サポートセンター)

大邱保健大学とのGHLPと学生間交流について

例年、韓国の大邱保健大学とタイのコンケン大学と学生交換研修を実施していましたが、昨年引き続き新型コロナウイルスの影響により、学生を相互派遣する交換研修は中止となりました。しかし今年度は、GHLP(Global Healthcare Leadership Program)と学生間交流をオンラインで大邱保健大学と実施することになりました。

GHLPは、大邱保健大学主催で、8月20日(金)に開催され、海外の約10大学から各4名ずつ選出した学生を対象に、ヘルスケアとリーダーシップに関する特別講演(英語)があり、その後、討論会、発表会、K-POP Danceなどが企画されています。かなりの英語力がもとめられそうですが、学生にとっては貴重な体験になることと思います。

学生間交流は、9月11日(土)に、本学と大邱保健大学の学生がそれぞれ20名(4~5グループ)に分かれて、両国の文化や医療、大学の紹介などを実施する予定です。学生のオンライン交流は初めてなので、うまくいくか分かりませんが、まずは、オンラインでお互いの顔を見て、友達になれば、今後の交流につながるものと思っています。

当初、オンラインでの交流会なので、学生は興味を示してくれるか心配でしたが、学外実習に行っている学生を除いて、全学生に説明会をしたところ、多数の応募がありました。説明にご協力いただいた先生方、本当にありがとうございました。



次年度こそ、コロナが終息し、学生派遣ができることを願いながら、今年度のオンライン交流が充実したものになるよう支援していきます。(文責：国際交流委員会 事務局)

※この記事は公開していません。